

1 はじめに 「環境問題から防災教育」について

近年、世界各地で異常気象が起り、さまざまな自然災害が発生し、これには、環境問題と切り離せない関係があることは周知のとおりである。

そこで、これまで学習していた消費行動と環境問題から防災に繋がった授業を計画し、自分たちの効率や快適さを求める行為が、自然や環境を損なうことに繋がっていることを認識させ、自然災害から防災教育へ展開できるように考えた。

なお、防災に係る講義については、日本損害保険協会に協力依頼し、経済的な備えを含めた TT 授業を2年前から行っている。また、授業の導入において、日本損害保険協会の持続可能な社会に向けた取り組み内容を紹介し、行政・企業・国民それぞれの責務を再認識させるようにした。

ここでは、防災に関する TT 授業の内容を中心に報告したいと思う。

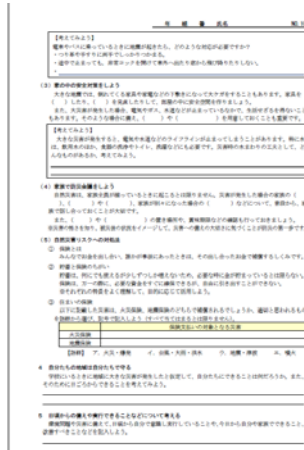
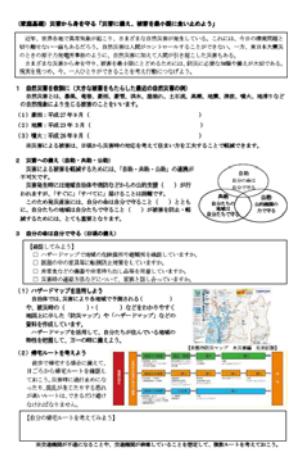
しかし、教科担当1人でも指導可能なことを意識して、ワークシートや資料編を作成しているため、是非活用いただきたいと思います。

2 「災害に備え、被害を最小限に食い止めよう」 日本損害保険協会とのTT授業について

(1) ワークシートと資料編

ワークシートは、講義とスライド・資料編を視聴しながら記入できるよう、また、生徒自身が考えて解答・記入する箇所を織り交ぜよう工夫した。

資料編は、講義内容の理解を深めるための参考資料として作成したが、特に災害への水回りの工夫例は、家庭科の視点を意識したものである。



【ワークシート】

【資料編】

(2) ねらい

環境への社会的責任をもつ賢い消費者となるための自覚をもたせるとともに、自然災害などの防災に係る必要な知識や備えについて認識させ、行動に繋げる態度を身に付けさせる。

(3) 評価規準

自分の行動が環境に与える影響を考え自覚し行動するとともに、防災に必要な知識や備えを認識し、実生活に繋げることができる。【関心 意欲 態度】

(4) 展開案 ※⑤は、スライドを示す

【T1:並川 T2:日本損害保険協会 講師】

	時間	内 容
導 入	2分	・挨拶・講師紹介・本時の内容について説明 (T1)
	4分	・消費生活と環境、持続可能な社会に向けて説明 (T1) ・グリーン・コンシューマーと5R運動について復習 (T1) ・環境マネジメントシステム(ISO14001)の取り組みについて ⑤ (T2) ・循環型社会について説明・エコ安全ドライブやリユースについて ⑤ (T2)
	3分	・効率や快適さを求める行為が自然や環境を損なうことに繋がっていることを説明 (T1) ・これまでの食生活・衣服・環境問題の学習を振り返る
	1分	・近年の異常気象と環境問題は切り離せないことを説明(導入)

		<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害は人間がコントロールすることができないが、東日本大震災のように、自然災害に加えて人間が引き起こした災害（人災）があることを説明（T1）
展 開	7分	1 自然災害を教訓に <ul style="list-style-type: none"> ・例示から災害による被害を考える (S) (T2) ・災害による被害の大きさは、日頃からの対応、住まい方に関することを説明（T1）
	3分	2 災害への備えについて <ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助・公助について考える (S)(T2) ※開隆堂教科書では「共生」P.68 (T1)
	22分 (2分)	3 自分の命は自分で守る <ul style="list-style-type: none"> ・確認してみよう（指示 T1）※挙手をさせ、実態を確認
	(5分)	(1)「ハザードマップ」「防災マップ」の活用について <ul style="list-style-type: none"> ・「動画で学ぼう！ハザードマップ」 日本損害保険協会作成（3分視聴） ・京都市防災マップを活用して本校近辺の状況について説明 (S) (T2)
	(2分)	(2)帰宅ルートについて (T2)・・各自の帰宅ルート記入は、課題とする <ul style="list-style-type: none"> ・下校時間に係る学校の対応について説明（T1） ・考えてみよう（指示 T1・指名、説明 T2）
	(3分)	(3)家の中の安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・対処方法等について具体的に考える（T1） ・考えてみよう（指示 T1・指名 T2・説明 T1）
	(2分)	(4)家族で防災会議をする重要性 <ul style="list-style-type: none"> ・避難に備えて各家庭の避難場所や連絡方法、備蓄品等について考える（T1） ・安否情報の確認方法 (S) (T2)
	(8分)	(5)自然災害へのリスク及び経済的な対処方法について説明 (S) (T2) <ul style="list-style-type: none"> ・貯蓄と保険・保険のしくみ (T2) ・火災保険、地震保険について (T2)
	2分	4 自分たちにできることを考える <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との繋がりが大切なことを説明、本校の「清掃ボランティア等実施」等 (T1) ・例示 (S) (T2)
	2分	5 日頃からの備えや実行できることなどについて考える <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができることを自分の生活と併せて考える（T1） ・日本損害保険協会の防災啓発の取り組みについて紹介「防火標語・啓発」等（T2）
1分	6 質疑応答 （T1・T2）※時間を見て質疑応答の時間を調整	
ま と め	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・講義のまとめ (T2) ※生徒の様子や時間を見て「まとめ」を調整 ・(ワークシートのまとめ・アンケート記入・回収は次時間に) (T1) ・挨拶

※・「考えてみよう」の発問は並川が、指名は講師が行うよう設定し、生徒との一体感を持てるよう工夫した。

・TT 授業の場合、授業展開や各持ち時間の目安等を決めておき、授業時間内に完結できるよう確認が必要であり、そのための打ち合わせ時間等かなり要した。


(5) アンケート

アンケートは次年度の授業改善に活かせる内容を考えた。

質問事項については損害保険協会からの回答をプリントにして生徒に配付した。

生徒の代表的な質問や感想を次に示す。

「消費行動と環境・災害への備え」を学習して	
年 組	番 氏名
次の事柄について回答してください。 (A:はい B:まあまあ C:いいえ)	
1 わかりやすい説明でしたか。	(A B C)
2 講義の内容は理解できましたか。	(A B C)
3 今後の生活に役に立つ内容でしたか。	(A B C)
4 「動画で学ぼう!ハザードマップ」に興味を持ちましたか。	(A B C)
5 資料編は参考になりましたか。	(A B C)
6 質問があれば記入してください。	
7 感想や意見などを記入してください。	



質問

- ・避難場所の優先順位はあるのですか。
- ・地震保険の加入率はどのくらいですか。
- ・ハザードマップは、何年毎に作り直されていますか。また、目安となる災害などを選ぶ基準は何ですか。

感想

- ・日本は地震の国と言うだけあって、わりと地震は身近な存在だったものの、東日本大震災のニュースなど見ていると、どこか他人ごとのような気がしていた。これをきっかけに、日頃の生活を見直したいです。

- ・災害は自分とは関係ないと思っていたが、今回の講義で、災害が起きたときの備えは命を守るために大切であることに気付くことができました。
- ・災害について学ぶことはあっても、それについての備えを考えることはあまりなくて、登下校中の避難経路は想像もつかなかったのととてもためになりました。

3 成果と今後に向けて

今回の講義の中で、次の2点は特に生徒に考え、認識させたい内容である。

ワークシートにおける項目と生徒の意見を示す。

ワークシート4 「自分たちの地域は自分たちで守る」

学校にいるときに地域に大きな災害が発生したと仮定して、自分たちのできることは何だろうか。

また、その日のために日頃からできることを考えてみよう。

- ・地域の人達に、体育館の場所を教えたり、混雑を整理したりする。日頃からプールの水をためておく。
- ・老人や子ども達の誘導をする。そのためには、日頃から安全な避難経路や避難場所を考えておく必要がある。

ワークシート5 「日頃からの備えや実行できることをなどについて考える」

環境問題や災害に備えて、日頃から自分で実行していることや、今日から自分や家族でできること、改善すべきことなどを記入しよう。

- ・災害に備えて、自室で寝る向きや家具の配置状況などが安全であるか考えています。
- ・家族で災害について話したり、非常用持ち出し袋を準備したりしていないので、万が一に備えてこれから準備していきたい。

10 数年前に、阪神淡路大震災が起こり、現在復興はしているものの、多くの人々の中にその爪痕が残っていることは否めない。講義を受けた高校生は大震災を経験しておらず、災害はどこか他人事のように思う生徒も少なくない。

しかし、今回、日本損害保険協会と TT 授業を行い、生徒達は「何をすれば良いのか」改めて考える契機になったと思う。

自分の命は当然大切であり、自分で守るべきものであるが、家族や地域の人々に対して自分ができることをしっかり認識し、行動に繋げて欲しいと心から願う。

防災教育に注力している日本損害保険協会と TT 授業を取り組めたことは、講義内容が深まるとともに、地震保険の仕組みなど私自身学ぶことが多かった。打ち合わせなどに多くの時間を費やしたが、それ以上の成果を得ることができ、来年度も TT 授業の実施を日本損害保険協会と確認している。

今回報告した講義内容は、前述したように、TT 授業でなくても実施できるので、ワークシートや資料編を是非活用いただきたい。

なお、現在ワークシートと資料編は再検討しており、いずれは先生方に配付できるようにしたいと考えていることを付け加えておきたい。